

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4090600083		
法人名	医療法人 心愛		
事業所名	グループホーム ビートルズ	(ユニット名	2階・3階 )
所在地	北九州市八幡東区白川町7番43号		
自己評価作成日	平成23年12月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・アットホームで家庭的な雰囲気を残している。</li> <li>・市内でも歴史のある町に位置し、とても閑静な場所である。</li> <li>・1階に市民サロンを設置し、地域との交流の場を作っている。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成24年1月21日

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>母体は医療法人であり、長年地域で高齢化・認知症となる患者やその対応に苦悩する家族達と関わる中で、医療と介護の両輪で地域社会を支えたいとの法人代表者の強い思いから作られたホームである。当事業所の他に北九州市内に介護老人保健施設や4ヶ所のグループホームを開設しており、長年にわたる認知症介護の経験と対応のノウハウを法人全体で周知している。利用者の言動には必ず意味があると理解し、その意味を探り対応するケアを実践している。一人ひとりの利用者に対して本人本位のケア提供を徹底している。ホーム1階に市民サロンを設置しその利用について検討中であり、地域密着型サービスとして益々の発展が期待できる事業所である。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこ と、求めていることをよく聴いており、信 頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの 人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地 元の関係者とのつながりが拡がったり深 まり、事業所の理解者や応援者が増えて いる	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおお むね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサー ビスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務の中で実践出来る様努力し、全スタッフで意思統一を図っている。	入居者に対する「感謝」、入居者の満足を得る「感激」、入居者と共に有する「感謝」、やりがいを実感できる「喜び」、地域に根ざす「介護」という事業所理念を掲げ、月1回のミーティング時に意識付けをし、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者一人一人が町内会に所属し、地域行事の際の参加・交流を目指している。	事業所開設当初より町内会、家族の協力を得て、利用者1人ひとりが町内会に所属している。広報も1人ひとりに配布され、町内会行事等の案内をいただいている。事業者1階に市民サロンを設け、地域交流の場となるよう検討中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会が無いため、出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部の方の意見は可能な限り取り入れて、サービス向上に繋げている。	町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員等の出席を得て開催している。ホームの状況や事故報告、市民サロンの活用について毎回活発な意見交換がされている。参加者から、転倒予防対策としてベッドの位置の変更等についてもアドバイスをもらい、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の方やご家族より介護相談を受けた際、分らない事柄等に関しては、市や区の窓口の方のアドバイスを受けたりしている。	「ビートルズ」という事業所名が功を奏し市町村担当者にもすぐに覚えてもらい、顔馴染みの関係となっている。日々の業務の中で生じる疑問や家族からの問い合わせについて担当者に直接電話もしくは面談し、アドバイスをもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止されている具体的な行為を十分に理解し、拘束の無いケアに取り組んでいる。	外部研修、内部研修にて、禁止されている具体的な行為について全職員が学ぶ機会を確保している。利用者の行動の意味を探り対応することで、利用者が抑制感を抱くことなく毎日の暮らしを過ごせるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修に参加させ、一人ひとり意識を持って努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外の研修に参加して、制度を理解し、実践に向けた取り組みを工夫している。	外部研修、内部研修にて権利擁護に関する制度について全職員が学ぶ機会を確保している。2名の利用者が成年後見制度利用を検討中である。今後は、市民サロンを使って家族や地域の方々へも周知を図り、支援に取り組む予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際し、十分に説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、面会時の何気ない会話の中から聞き取った事柄等を反映させている。	家族には必ず職員から声をかけ、日々の様子を伝え話しやすい雰囲気作りに努めている。家族訪問時に職員が入浴介助やトイレ誘導でフロアに一人も居ない事があった時に、家族より不安の声が上がリ、フロアには常時1名以上は必ず職員を配置する等の改善対応をしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々に意見を聞いたり、毎月のミーティング等で全体の意見を聴取し、反映させている。	脱衣所に手すり設置の提案をしたり、新聞取りが日課であった利用者の生活習慣を継続できるようにホーム玄関入り口に設置されていたポストを居住スペースのあるフロア入り口に移動したりして、職員の気付きやアイデアを運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフへの環境整備は出来ていると思う。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用等に関しては、性別や年齢等で排除したりしていない。また、働く職員に関してもその能力を発揮出来る様に配慮している。	現在、27歳～64歳の職員が勤務しており、年齢や性別等で採用の制限は無く、人柄や真心を重視し採用している。職員の能力を引き出し、資格取得の情報提供等、自己実現の支援をしている。希望休も取りやすく、職員は働き甲斐を持ち生き活きと勤務している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月一回のミーティング等で話し合いを設けている。	外部研修に参加し、研修参加者による伝達講習を内部で行い、人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフに合った研修や必要な研修に行ってもらい、ホーム内研修を行っています。また、希望者には年1回リフレッシュ休暇を与えて業務の向上を図っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在進行形で動いている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分に傾聴し、コミュニケーションを図っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	柔軟に対応する努力を行い、家族の意見に傾聴し、より良い関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の上で見極め、対応する努力を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の豊富な経験から片付けなどのコツを学んだりして、支え合う関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にコミュニケーションを図り、家族との関係、本人を支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも電話で連絡を取ったり、訪問があればいつでも面会できるように努めている。	昨年8月開設から3ヶ月間は、一人が帰宅願望を訴えると全利用者が不穏状態となり、その都度家族や知人等に訪問や外出をお願いし、本人の居場所としての馴染みのホーム作りに専念してきた。現在は、本人の希望に応じ電話を取り次いだり、訪問時にはゆっくりすごしていただけるよう配慮したり、関係継続の支援を行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように常に共通な話題を持ち、対応出来るよう心掛けている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	そのようなケースは発生していないが、相談や支援に努める体制は常に持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的会話の中で、入居者の意向の把握に努めています。月に1回担当者会議・モニタリング等でニーズを掘り下げ入居者の希望を優先している。	日常生活の中で言葉や表情で利用者の思いを把握し一緒に行動を共にしている。意思表示の困難な利用者には、家族の協力や職員間で意見交換をして、意向の把握に努め本人本位に対応している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話で情報を得て、ミーティングで報告・検討・情報交換をすることで把握できている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションを行ったり、お手伝いを依頼したりして心身の状態を知るように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者中心のカンファレンスを行い、全スタッフで意見収集・モニタリングをして介護計画を作成している。また、面会時の家族の意向も計画に反映させている。	利用者の日常生活や健康状態を毎日の申し送りにて把握し、医療関係者の意見を踏まえ職員間で意見交換を行い、3ヶ月毎に見直しを行っている。見直し前でも状況変化を細かく検討し、利用者・家族の意思を確認の上、現状に即した介護計画書を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートを設置し、それを基に記録しています。また、スタッフミーティング等で情報を共有して実践している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の際、ホーム指定の病院であればスタッフが同行しているが、他の病院は、基本ご家族の付添いをお願いしている。但し、希望があればスタッフが送迎・付添いも行っている。また、外出・外泊等の入居者の希望に応じて柔軟な支援をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の意向が無いため行えていないが、方法の模索をして行きたい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続が出来るような支援を考察しているが、強い希望が無いために行っていない。	入居前からのかかりつけ医を含め本人・家族の希望する医療機関を「かかりつけ医」とする旨を説明して、現在全利用者がホーム協力医を選択している。往診や、24時間対応訪問看護師にて健康管理がなされている。皮膚科や眼科等への受診については職員が同行しており、。受診結果に関する情報は家族と共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体が医療法人のため、相談しながらやっている。また、医療連携で訪問看護とも相談しながらやっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族等と情報交換しながら、早期退院に努めている。また、病院においてはSWを窓口に関係者に細かな調整・情報交換を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ準備が出来ていない。	法人全体の具体的な内容が決まっておらず、今後前向きに検討する予定である。	24時間対応できる医療機関との連携を模索しているところでもあるので、法人として具体的な取り組みを検討する機会を持つことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや内外の研修にて実践力を身に付けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を行い、全スタッフが身に付けられるよう努めているが、地域との協力体制は築けていない。	開設にあたり利用者の入居前に消防署と職員合同で避難訓練を実施している。利用者の避難誘導方法についても確認している。今年3月に消防署・地域・利用者合同で避難訓練を実施するよう計画されている。	有事に備え、避難場所の確保や、夜間を想定した避難訓練の実施等が求められていることから、地域住民との協力体制を築くような取り組みについて検討することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳を守ることは基本方針であり、失礼の無いよう言葉かけている。また、記録等の個人情報に関しても、外部者の目の触れないよう棚に整理している。	目立たずさりげない声かけや対応を基本とし、その人らしい尊厳のある姿が守られるよう日々のケアを実践している。特に、排泄や入浴時は本人の気持ち・羞恥心に配慮したケアをしている。記録や個人情報は、事務室の所定の場所に保管するようになっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の意見を聞き、その人その人に合わせたレベルに応じ、自己決定が出来るよう支援を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールは組んでいるが、入居者の希望によって散歩や買い物等、流動的に対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい生活が出来るよう、その方の好みや希望に沿って支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんでもらえるよう、食べたい物を聞き取ったり、また、調理ををしたり、準備や片付けを行ってもらったり、時々外食も行っている。	テーブルは全員の顔が見えるように配置され和やかな雰囲気ですり、同じ場所で職員が見守りながら一緒に食事をしている。献立や外食は利用者の希望を取り入れている。また、食器洗いやテーブル拭きも利用者と一緒にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態や年齢・好みに応じて、食べ物や量・形態に細やかに対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは重点的に支援しています。特に口腔内の清潔保持は、健康に大きく関わっていると認識している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表にて一人ひとりの状況を把握し、その方のレベルに応じて支援している。	排泄パターンを全職員が把握し、個別に自立支援を行っている。日中は可能なかぎり、トイレ誘導を行い、オムツの中への排泄からトイレでの排泄に移行した利用者や、床ずれの改善が見られている。自尊心に配慮した声かけをしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水本補給や食物繊維を多く摂ってもらったり、体操や散歩を行い体を動かしてもらったりと、日々の状態を確認し個々に応じた予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本週3回で午後の時間帯で入浴を行っている。また、その他の時間でも希望や状況に応じて可能な限り対応出来るよう支援している。	入浴は週3回設定しているが、受診や外出等で他の曜日を希望する方にはその都度対応している。拒否のある方にはタイミングを見計らい支援している。また、同性職員による介助を希望する方には、希望に添うように対応している。安全に配慮し脱衣所や浴室の入口に手すりを設置する予定である。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、リビングで居眠りや眠たそうにしている方には、自室にて休まれよう様促し、気持ちよく休息が出来るように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが目的を理解しており、服薬の支援と症状の変化に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かし、調理・清掃・洗濯(干す・たたむ)等、日々張りのある生活を送ってもらえるよう支援しています。また、生け花や絵画等の楽しみのある方に対しては、気分転換等の支援をしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って、散歩・買い物・ドライブ等を実施している。	天気の良い時はホームの周辺を職員と一緒に散歩している。歩行不安定な方には職員が見守り外出の機会を作っている。季節の花見等、ドライブにて気分転換が出来る様に支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数人の方がお金を所持しているが、持つことが安心感であって特に使う目的が無く、使うための支援はしているが、使っていないのが現状である。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話や手紙等自由にやり取り出来る支援をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節的な飾り付けや行事の写真を掲示したりして回想が出来る工夫をしている。また、四季の移り変わりが分るよう庭木の整備を行っている。	換気に配慮し不快な匂いは排除しており、空調にて快適な空間となっている。ホール内の和室には、季節の花を利用者全員で盛り花を活けて楽しまれている。また、利用者の力強い書初めや折り紙、行事の写真等も各ユニット毎に掲示しており、日々の生活を実感できる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者一人ひとりの意思を尊重し、ゆっくり居られるような対応をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者や家族に相談し、使い慣れた物や好みの物を持って来てもらっている。また、居室には家族の写真や花を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	個々の居室には馴染みの家具や置物、家族写真、手作りの作品等が配置しており、自分の住んでいる家だと意識してもらえるように工夫がなされている。家族にも季節を通じて衣替え等を協力してもらっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の意見を参考にスタッフ側で検討を行い、環境作りを行い自立して暮らせるような工夫をしている。		